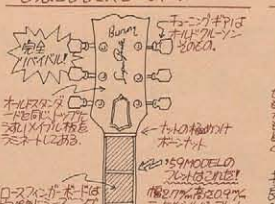
The Revival "Burny" RLG Series.

★スタンダードの頂点は'59年にあった!!

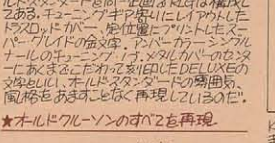
ソリッドボディのストラティバリウスとまさされるレスポール・スタンダード。1952年の頃に最初のレスポール・モデルを発表…ゴールドトップ・メイプルカーラミトップでマホガニー・ボディを2つのシングルコイルとのP.U.で支えあった、この'52年モデルから約5年、1958年のSGスタイルモデル・チェンジする間に様々なかのマイナーチェンジを施されて、ちなみに'56年モデルまでは'53年にはサビレート時使用していたラビーズ・テールピースに変り、ストップテールピースに、'55年にはネック・ジョイント部がセミ・マーティン・ギブソン・ルイスバーナム社製のT.O.M.ブリッジが初めて装着されたのだ。'57年にはトップ・バインディングが廃止され、'58年にはネック・ジョイント部がセミ・マーティン・ギブソン・ルイスバーナム社製のT.O.M.ブリッジが初めて装着されたのだ。'57年にはトップ・バインディングが廃止され、'58年にはネック・ジョイント部がセミ・マーティン・ギブソン・ルイスバーナム社製のT.O.M.ブリッジが初めて装着されたのだ。

★オールドスタンダードのヘッドストックは言うまでもなくスモールだ!!



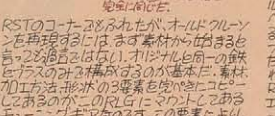
ヘッドアングル17°・オールドフォルムを重視するスモールヘッド。ヘッドストック前側にバーン程度の厚さのマホガニー材を合わせ、トータル1インフォルム板をラミネートしたモニュラるまで、すべてオールドスタンダードと同一企画のRLGは構成してある。チューニング・ペグギア採用にレイアウトしたドラムロールカバー、独立型ピックガードしたスーパーグレイドの金文字、ドットマークラッシュルナールのチューニング・ノブ、メタルカバーのエンドにあくまでこだわって刻印したDELUXEの文字もしかし、オールドスタンダードの雰囲気、風格をあますことなく表現しているのだ。

★オールドルーツンのすべてを再現

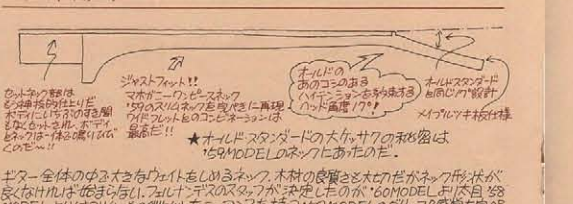


RSTのコーナーで、ふれたが、オールドルーツンを再現するには、まず素材から始まるといっても過言ではない。オリジナルと同一の鉄セララスのネック構成であるのが基本だ。素材、加工方法、形状の3要素を満たすにはこれしかない。ネック・ジョイント部のマホガニーのRLGにマウントしてあるチューニングギアもあるさ、この要素をふくめ、オールドスタンダードのテンション・バランスをピタリとセットしたのだ。

★エー!!ストラップピンの材質まで同じだなんて!



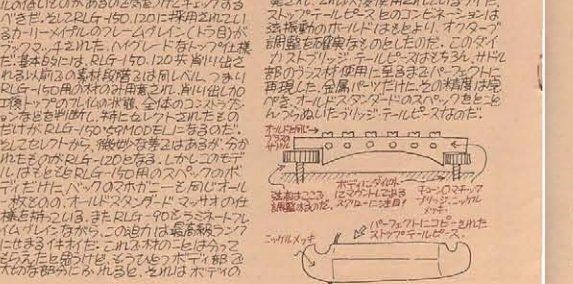
★そう、もうことなしのマホガニー・ワンピースのバック・ネックはオールド・スタンダードそのものだ!



ギター全体のゆるぎない大きなウェイトをしめるネック。木材の良質さと大たのだがネック形状が良くなければ、成らない。フォレンデスのスタッフが決定したのが'60MODELより太目'59MODELよりはスリムの絶妙なセニュアンスを持つ'59MODELのグリップ感覚を現代に再現した。もちろんオリジナル通りのワイドフィールドだがしかしこれは言うまでもない。この独特のグリップ感はRLG-90、120、150には最適解にランフェルマホガニーワンピースの材をセレクト。RLG-50ともなるとハイレベルな材質技術が生かされているからスゴイ他には類をみないハイ・スペックだ。

★オールドトーンは OILコンデンサーこそ決まりだ!!

2バリやカーラされるP.U.ごとにボリュームをトーンコントローラーがついていて、一の段3点スイッチ2P.U.もレフトオフ・ただ、そのリアルSWをオールドスタンダードスタイルの位置にするだけで、スイッチ1つでオールドカラーとバーサイルスーパーサイルに変化して使用する場合、一方のボリュームを0にするまたは、ホーン時のP.U.からはオリジナルスタイルのワイヤリングを採用しているがただけど、極めつけがトーンコントローラー、オールドと同タイプのオイルコンデンサーを使用したスペシャルスペックは、限りなくオールドトーンに近づくしている。またコントロールつまみアンティークなマンバーカラーのツマミ、パラパラ、ボケ、ふるえ、ノイズ、メモリ…。

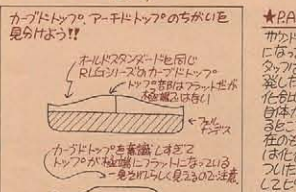


★信頼感をつちかうブリッジ&テールピース

The Revival "Burny" Series.

★カーブド・トップの美しいフォルムを完璧に再現した!!

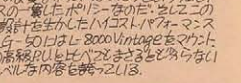
レスポール・モデルの大きな魅力には、トップのフォルムがあるが、トップの平均厚には大きく分けて2つの違いがある。ボディ・サイドからの出にだけ2弧を描いているのが、アーチド・トップ。これは再生産のスタンダードに採用されている。フラット2弧のカーブのものは、カーブド・トップと言われているように、サイドが少しフラット2弧のカーブからのふたけてどりとり、中央部にくるとフラットになり、フロント・P.U.からテールへのまるい2.1ヶ弧の傾きフラットに近くなってくる。このスタイルがオールドスタンダードのものである。RLGシリーズのフォルムもこれである。そして、そういった大切なのは、このトップのフォルムを出すためには、外周サイドの厚みはぜったい2.1弧をこしたセットが出えてこめ、もしおちっていた場合は、あのカーブド・トップの美しいフォルムは決して生まれないだろう。これを確実に守っているのはRLGを言うまでもなくオールドスタンダードだ。



★P.A.F.のマグネットはBIGだった!!

サウンドをもたらし、オールドP.U.の大きなポイントになっているのがマグネットだ。フルオンデスのスタッフは徹底的なP.A.F.をめざして研究開発した。その結果、まずマグネットのアルニコ材化を促進することから、マグネットの大きさ自体がサウンド面に大きな影響を与えることにと着目した。まず、オールドP.A.F.は現在のそのよりもサイズが大きいにとも、アルニコ(また合物のため、イモノ特有の表面がザラついた作業がついてはいるが(一般的にはカロとこのやこやの金属研ぎしてはいるが)オールドP.A.F.は鏡面がついた素材に近い状態のマグネットを使用していたのだ。そのフルサイズにマグネットが使用されていることと重複してRLG用P.U.は、オールドP.A.F.同様最強なBIGなマグネットを採用しているのだ。

そして、そのBIGなフルサイズマグネットに最終段階において、オールドサウンド再現の決定的な手法を採用しており、オールドP.A.F.サウンドの秘密は、経年変化によるマグネットの磁力変化、かポイントとされることから、そのマグネットの経年変化によるマグネットパワーを切かりなセッティングと、せる特殊な、フルオンデスだけの方法を開発。スペシャルアレンジされたコイルとのコンビネーションにより、ひかえ目なパワーの中に、コシの強いツヤのあったオールドP.A.F.特有の枯れたサウンドを見事に再現しているのだ。このP.U.L-8001 Vintage がRLG-90、120、150に共通に採用されている2の理由は、ちがい上のサウンドは当然、ボディとのコンビネーションによるのみで済むと、したがらにコイルアレンジをしていたりはしない。自前はオールドスタンダードサウンドP.A.F.パワフルの良質なサウンドはひとつとしてフルオンデスの一歳した、ポリシーなのだ。そしてこの基本設計を生かしたハイコスト・パフォーマンスなRLG-50には、8000 Vintage をマウントした他の高級P.U.とヒバリをさせるとうならないハイレベルな内容を誇っている。



RLG-60'59MODEL ¥60,000
個性的なサウンドのレイドバック・P.U.!!

オールドレスポール・スタンダードは'59MODELを頂点としているが、'52年モデルから'60年モデルまで生産中になまるら同様のマイナーチェンジがなされている。メイプル・マホガニー・バック、マホガニー・ネック・ジョイント、ストラクション、2ピース・クルーカット・タイプ、ラビーズ・テールピースに変わり、フリンジをかねたストップ・テールピースにマイナーチェンジされたオクターブ・チューニング、オーバーサイズのコンビネーション・ノブ、極細ヘッドストックの'59スペシャルネックと中折れした仕様を最後にしているのがマホガニー・ワンピース・ネック・ジョイント・バック・P.U.もの2ピースなど様々なタイプがあるが、ここでは'59MODELを再現するにあたり、'59MODELの最終仕様を基本にしたRLG-60'59MODELを開発した。

'55年の始めから'60年にかけてスタンダードと同様、サンバースト色で製作された、同時期同じくして小量ながら約2P.U.のモデルが生産されたのだ。フルオンデスでは、カスタムモデルのこの2P.U.をサンバースト色に着色し、スタンダードとはちがってトップまでマホガニーのあるセクシーなカスタム特有のボディ・コンストラクションとこの時代をしのばせるヘッド・アングル17°のスペシャル、テンション・バランス、(再生産モデルはヘッド・アングル14°のコブ付)マホガニー・ワンピース・ネック、今は見かけなP.U.レイアウトとされている2ハンバッキングのコンビネーションをゴールド・パーツにベスト・マッチングしたカラー・ビューティーのクラシックなカスタム・モデルの個性を一段と印象強くしている。このスペシャル・ネックの'59モデルの最終仕様は、ネックのネック・ポケットにしたがってネック角度は異なるものの、ネック・ジョイント部は、